

下京雅学校だより

~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~

学校評価特集

子どもを共に育む
京都市民憲章



平成 30 年 10 月
京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、7 月に実施いたしました平成 30 年度第一回学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、その実現度を比較しました。学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい下京雅教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。

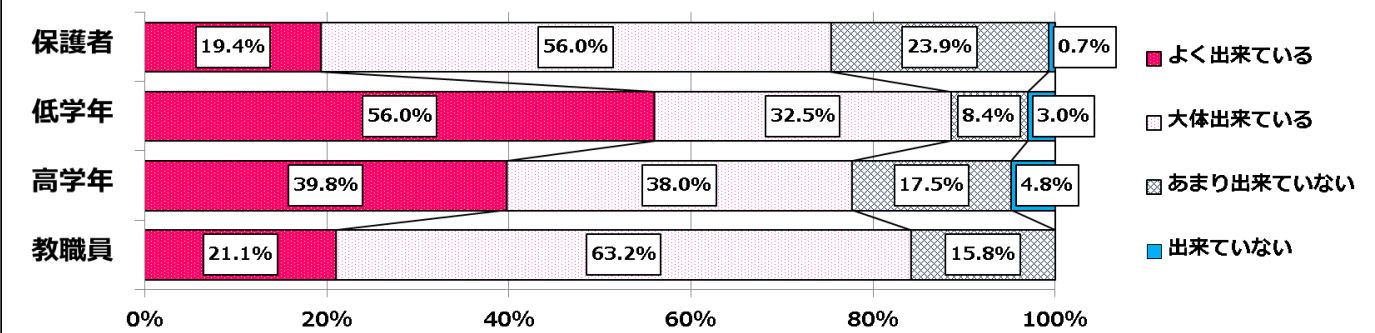
【アンケート集計結果】(実現度の値は、解答の平均値を 1.0～4.0 のスコアで表示したものです。)

	質 問 項 目 ※（ ）は児童用の質問 児童アンケートには「子どもは」「家庭では」という主語はありません。	実現度(4.0に近いほど実現できていると考えられます)				分 析・考 察
		保護者	低学年	高学年	教職員	
確かな学力	子どもは、学校の授業がわかっている。 (学校の授業はよくわかる)	3.2	3.6	3.5	3.3	昨年度と同様、「学校の授業がわかっている」という問いに対して、児童の実現度が高いことは喜ばしいことです。また、「話を聞くこと」についても高い実現度となりました。一方、「自分の考えが言える」については、まだまだ満足できるものではありません。日々の授業の中で、積極的に思いを表出できるように指導を進めていきます。
	子どもは、めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。	3.1	3.5	3.3	3.2	
	子どもが人の話をしっかり聞けるように、家庭でも話をしっかり聞いている。	3.0	3.5	3.3	3.5	
	子どもが、自分の考えをきちんと言えるように子どもの言葉を待つようにしている。 (自分の考えが言える)	2.9	3.4	3.1	3.3	
	家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。	2.9	3.4	3.1	3.1	
豊かな心	子どもは、楽しく学校に通っている。 (学校にいくのが楽しい)	3.6	3.6	3.6	3.5	「学校にくるのが楽しい」という問いについて、3.5以上の高い実現度であったことは、非常にうれしい結果です。「あいさつ」に対しての実現度も、昨年度よりも高まっています。学校を始め、家庭や地域の皆様が、積極的にあいさつに対する意識を高めていただいているおかげかと考えています。
	家庭では、お互いの良さを認め合い、自分もまわりの人も大切にできるようにしている。	3.2	3.7	3.5	3.2	
	家庭では、家や学校、社会のルールを守ることの大切さを確認している。(ルールを守っている)	3.3	3.5	3.4	3.4	
	家庭では、あいさつを大切にし、誰に対しても自分から進んであいさつができるようにしている。	3.1	3.4	3.3	3.5	
	家庭では、相手や場面を考えた、ていねいな言葉遣いを心がけている。	2.9	3.4	3.1	3.4	
健やかな体	家庭では、「早寝早起き朝ごはん」などの生活習慣が身につくように心がけている。 (早寝早起きなど生活習慣が身についている)	3.2	3.3	3.2	3.2	児童の「外遊び」での高い実現度には、ジャンプアップの取組が関係していると考えています。昨年度に引き続き、週二回、ボールや縄、バトンなどを使って楽しく遊ぶことで、体力も向上していています。
	家庭では、好き嫌がなく食事ができるように働きかけている。(好き嫌がなく食べている)	3.2	3.3	3.3	3.4	
	家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。(よく体を動かしている)	3.0	3.5	3.3	2.8	
いじめ防止等	「自分は大切にされている」という実感がもてるようなかわりを大切にしている。 (大切にされていると感じている)	3.2	3.4	3.2	3.3	児童の「いじめに対する認識」が高いことに一安心しています。この結果に満足せず、「いじめは絶対に許さない」という厳しい姿勢で、大人も子どもも正しい認識をもっていきたいです。
	「いじめ」等についての認識を深め、子どもの様子をしっかりと見守っている。 (いじめはしてはいけないと理解し、友達を大切にしている)	3.3	3.7	3.8	3.5	
家庭・学校・地域の連携	学校は、ホームページや学校だより、学級の学習予定表などで学校の様子を分かりやすく伝えている。	3.4			3.0	学校は家庭・地域の皆様と連携して子どもたちの成長に全力を注いでいきます。そのためにも、これまで以上に情報公開を行い、開かれた学校づくりを進めていきたいです。
	「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言えるようなかわりをしている。	3.3			3.5	
	学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できる。	3.2			3.1	

ご協力ありがとうございました。後期学校評価アンケートもよろしくお願いいたします。

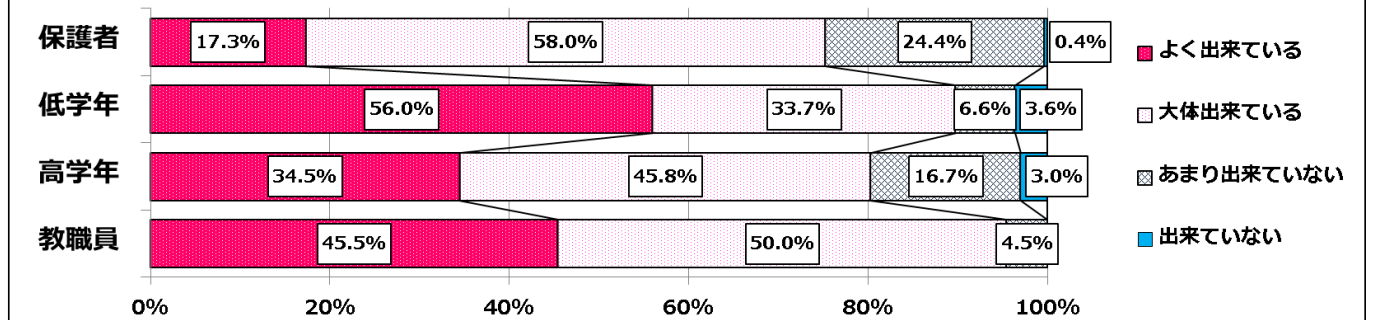
【特徴的な項目での分析・考察】

【確かな学力】 家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。（計画的に家庭学習に取り組んでいる）



「よく出来ている」と回答した低学年児童と高学年児童が40%以上いるのに対し、保護者や教職員は20%程度と低い割合でした。また、「あまり出来ていない」「出来ていない」と回答した割合においても、保護者で約25%、教職員で約16%と高い割合となっており、少し課題が見られました。継続して家庭学習に取り組むということは、自学自習の力を身に付けるということです。自分で勉強するという習慣は、「計画を立てたり」、「見通しを持って行動したり」、などのとても大切な力をつけることにつながります。この力は、自分の時間や行動を自分で決めていく力であり、社会でたくましく生きていくための基礎となる力です。ご家庭でも、子どもたちの自学自習の態度を育むために、ぜひ力を注いでみてください。

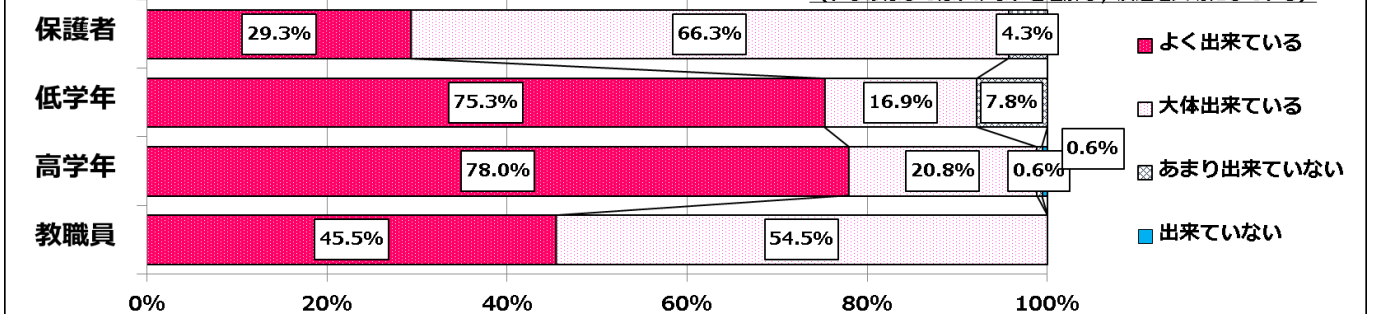
【豊かな心】 家庭では、相手や場面を考えたていねいな言葉遣いを心がけている。（ていねいな言葉をつかっている）



低学年児童と教職員は「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答している割合が高いのに対し、保護者や低学年はその割合は少し低い結果でした。特に、保護者の「あまり出来ていない」「出来ていない」と回答した割合が高く、少し課題を感じています。子どもたちの言語環境を考えたとき、言葉について学習する機会が多いのは家庭と学校です。「家庭だからそんなに言葉遣いに気をつかわなくてもいい」という考え方もあるかもしれませんが、「家庭こそ言葉遣いの基礎を学ぶ場」ととらえることもできます。ぜひ家族ぐるみでていねいで美しい言葉を使って生活してみませんか。

【いじめ防止等】 「いじめ」等についての認識を深め、子どもの様子をしっかりと見守っている。

（いじめはしてはいけないと理解し、友達を大切にしている）



いじめの未然防止のためには、子どもたちが、自己有用感や充実感を感じられるような安心できる学校づくりが不可欠です。そのためには、学校の教育活動全体を通じ、豊かな情操や道徳心、互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重するなど豊かな心をはぐくむとともに、「いじめは決して許されない人権侵害である」ことを理解させることが重要であると考えています。家庭においては、子どもが悩みを相談できるようにするとともに、いじめを許さない心をはぐくむなど規範意識の向上に努めることが大切です。

学校運営協議会の方々のご意見

（多くの意見をいただきました）

遊びの中で体力の向上も図られる。ジャンプアップの取組は素晴らしい。

校区に公園がなく、遊び場が少ない。子どもたちにとって、遊び場がないので、遊び方も制限されてしまう。

受け身ではなく主体的な子どもたちの姿を目指したい。

子どもたちが何度もあいさつをしてくれてとても気持ちがいい。これからも続けてほしい。

これらの結果を、後期からの下京雅教育推進に生かしていきたいと思います。